



# 日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.38

---

## 目 次

1. 第24回日本ワクチン学会学術集会のご案内  
第24回学術集会会長 吉川 哲史……………2
2. 第25回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ  
第25回学術集会会長 石井 健……………3
3. ワクチン関連トピックス  
I) 異なるワクチンの接種間隔の見直しについて……………4  
II) ワクチン等の安定供給にかかる制度見直しについて……………5
4. Vaccine 日本ワクチン学会割り当ての投稿規定について（原著論文受付開始のお知らせ）  
Vaccine 誌編集委員会 委員長 中山 哲夫 ……7
5. 2021年日本ワクチン学会第16回高橋賞・第10回高橋奨励賞 応募要綱 ……7
6. 会員会告  
1) 2020年度第1回日本ワクチン学会高橋賞選考委員会議事録（2020年7月10日）……………9  
2) 2020年度第1回日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会議事録（2020年7月10日）……………9  
3) 2020年度第2回日本ワクチン学会理事会議事録（2020年7月10日）……………10
7. 賛助会員一覧……………14

## § 第 24 回日本ワクチン学会学術集会のご案内

第 24 回日本ワクチン学会学術集会  
藤田医科大学 医学部 小児科学  
会長 吉川 哲史

会 長：吉川 哲史（藤田医科大学 医学部 小児科学）

会 期：2020 年 12 月 19 日（土）、20 日（日）【WEB 開催】

テーマ：ワクチンで創る持続可能な未来の医療

大会 HP：http://www.cs-oto.com/jsvac24/index.html

運営事務局：第 24 回日本ワクチン学会学術集会 運営事務局

TEL：052-508-8510 E-mail：jsvac24@cs-oto.com

### ○ WEB 配信について

本会プログラムのご視聴には「ライブ配信」と「オンデマンド配信」をご用意させていただきます。

| 配信形態     | 配信プログラム（予定）  | 配信期間                                     |
|----------|--|--|
| ライブ配信    | 会長講演、特別講演、韓国ワクチン学会招聘講演、シンポジウム、高橋賞・高橋奨励賞受賞記念講演、若手奨励賞受賞者講演、教育セミナー、一般演題*1 | 12 月 19 日（土）～20 日（日）の各セッション時間に則って配信されます。 |
| オンデマンド配信 | 会長講演、特別講演、韓国ワクチン学会招聘講演、シンポジウム、一般演題                                     | 2020 年 1 月から約 2 週間を予定しております。*2           |

\*1：事前に提出して頂いた発表データの再生のみとなります。リアルタイムでの質疑応答はございません。

\*2：単位対象セッションは資格認定委員会の審査・承認フローとの兼ね合いにより、別途視聴期間が設けられますのでご注意ください。具体的な日程は今後ご案内いたします。

### ○ 事前参加登録期間について

2020 年 10 月 16 日（金）正午～2020 年 12 月 10 日（木）中となります。

※事前参加登録はオンラインでのお申込みにて承ります。

学術集会 HP「事前参加登録」ページ：<http://www.cs-oto.com/jsvac24/registration.html> よりお申込みください。

※ライブ配信・オンデマンド配信ともに、本会プログラムをご視聴頂きたい方は上記期間中に必ずお申込みください。単位対象セッションのオンデマンド配信ご視聴を希望される方にも同様のご案内となりますので、ご注意ください。

※参加費は以下の通りとなります。

会員 8,000 円、非会員 10,000 円、学生 2,000 円

### ○ 小児科専門医更新単位について

「シンポジウム 2」および「シンポジウム 4」において、新専門医更新単位（小児科専門医共通講習 1 単位）の申請を予定しております。

実際のシンポジウム内容でもって資格認定委員会による審査が行われ、承認が得られ次第、WEB 配信の視聴で単位が取得できるようになります。

<重要>ライブ配信当日の該当プログラムを基に審査が行われ、承認後改めてオンデマンド配信いたします。その際、視聴後のテスト問題も併せて配信いたしますので、必ずテストにご回答いただき、80%の正解をもって初めて単位申請が可能となります。尚、承認後のオンデマンド配信までには3か月ほどを要するようですので、受講された方にはその際メールでご連絡させていただきます。

例年と異なる開催方法で参加者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、WEB 開催へのご支援とご協力をお願い申し上げます。

## § 第 25 回日本ワクチン学会学術集会のご案内

第 25 回日本ワクチン学会学術集会  
東京大学 医科学研究所 ワクチン科学分野  
会長 石井 健

会 長：石井 健（東京大学医科学研究所）

会 期：2021 年 12 月 4 日（土）、5 日（日）

会 場：軽井沢プリンスホテル（長野県軽井沢）

テーマ：「ポストコロナ時代のワクチン開発研究の課題と展望」

大会HP：準備中

この度は 2021 年 12 月 4 日～5 日の二日間にわたり、第 25 回日本ワクチン学会学術集会を長野県軽井沢で開催させていただくことになりました。

今回は学会のテーマを「ポストコロナ時代のワクチン開発研究の課題と展望」とさせていただきますました。

2020 年世界に広がった新型コロナ肺炎のパンデミックは多くの医学的、社会的課題を我々に突き付けました。なかでも誰が感染しやすいのか、なぜ一部の感染者のみが重症化するのかといった素朴な疑問はその科学的検証が必要不可欠ですが、感染症対策としての治療薬・ワクチンの開発におきましても、そもそも、誰にワクチンが効くのか、効かないのか、誰に副作用が起きるのかといった予測は難しく、「感染やワクチンに対する免疫反応の個人差」を科学的に検証・解明する重要性は以前に増して大きくなっています。

一方で同時に世界中では巨費が投じられ新たなワクチン開発がすさまじい速度で行われています。ワクチン自体も DNA, RNA, ウイルスペクター、タンパク、ペプチド、VLP、新たなアジュバントなどを用いたものが多岐にわたって開発、治験が進み、それらの有効性、安全性はもちろん、審査行政、ワクチン行政、流通、ワクチン忌避など、多くの課題が浮き彫りになったといえます。これらの問題はすぐに解決されるものではなく、今後一年の間に新たな課題が生まれる可能性も十分考えられます。

来年のワクチン学会は上記のような喫緊の課題を議論するシンポジウムから継続しておこなうべきワクチン学全般の一般発表まで幅広いトピックをカバーしていきたいと思っております。また今回の COVID-19 のワクチンの「騒ぎ」は学会会員の幅を超えており、一般の方やワクチン学会に参加経験のない医療関係者や研究者、行政関係の方も参加できるような形式をとればと考えています。

少し寒い季節とは聞いておりますが、12 月初旬の軽井沢にお集まりいただき、ソーシャルディスタンスをとりつつもしっかり面と向かって議論をする学会の原点に戻れることを期待して居ります。もちろん WEB での発信も同時に行えるよう本学会の準備を進めております。破壊的ともいえるイノベーションが起きているワクチン開発研究の議論を本学会を通して皆様と盛り上げることができれば幸いです。現在上記の目標にむけて産学官民よりプログラム委員をお願いし準備を鋭意進めているところでもあります。皆様のご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

## § ワクチン関連トピックス

### トピックス I

#### 異なるワクチンの接種間隔の見直しについて

一般財団法人阪大微生物病研究会 明地 正晃

2020年10月1日よりロタウイルスワクチンが定期接種となり、乳児期にはHibワクチン、肺炎球菌ワクチン、B型肝炎ワクチン、DPT-IPV、BCGに加えてロタウイルスワクチンが接種されることとなる。そこで、確実に接種機会を確保するために、接種間隔の見直しが行われた。

これまでは、生ワクチンについては接種後27日以上、不活化ワクチンについては接種後6日以上の間隔をおくことが規定されていた。これはワクチン接種後の生ウイルス同士の干渉を防止するため、あるいは副反応が起こるかもしれない時期を外すため、との考えによるものであった<sup>1)</sup>。

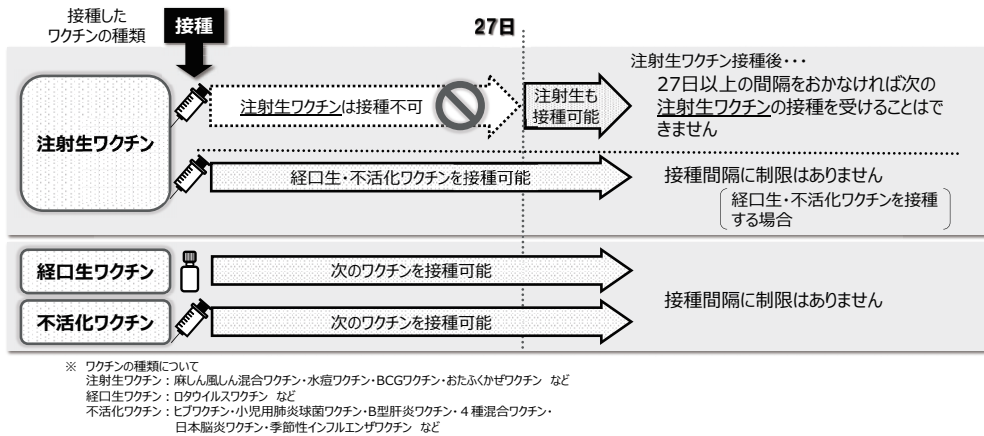
一般に生ワクチンは体内でウイルスが増殖することで効果を発揮する。生ワクチン接種後にはインターフェロンが産生されるため、インターフェロンの影響が残っている時期に次の生ワクチンを接種すると干渉作用で体内でのウイルス増殖が抑制され、ワクチンの効果が減弱する可能性がある<sup>2)</sup>。そのため諸外国においても、異なる生ワクチン同士の接種については、接種間隔に制限を設けている国が多い。一方、不活化ワクチンについては、体内での増殖が起らず、特殊な例（無脾症患者に対する髄膜炎菌ワクチンと小児肺炎球菌ワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチンと小児肺炎球菌ワクチン<sup>3)</sup>）を除いて、免疫学的に他のワクチンと干渉する可能性は極めて低いことから、米国、英国など諸外国においては間隔に制限は設けられていない。また、生ワクチン・不活化ワクチンともに他のワクチンとの接種間隔が安全性に影響したという報告はない<sup>4)</sup>。

更に、我が国においては、経口生ワクチンも注射生ワクチン同様の制限を設けている。しかし、ACIP (Advisory Committee on Immunization Practices) では、経口接種するロタウイルスワクチンと、DTaP ワクチン、Hib ワクチン、不活化ポリオワクチン、B型肝炎ワクチン、および肺炎球菌結合型ワクチンについては同時接種が可能であり、これらのワクチンに対する免疫応答はロタウイルスワクチンによって干渉されないと報告している。また、ロタウイルスワクチンと同時に投与されたインフルエンザワクチンに対する乳児の免疫反応は研究されていないが、以前に不活化ワクチン（不活化インフルエンザワクチンを含む）は、異なる別の不活化ワクチンまたは生ワクチン（ロタウイルスワクチンなど）と同時接種または前後のいかなる間隔でも接種できる、との推奨を出している<sup>5)</sup>。カナダにおいて例外（経口コレラワクチン（不活化）と経口腸チフスワクチン（生））はあるものの<sup>6)</sup>、諸外国では経口生ワクチンと他のワクチンとの接種間隔に制限は設けられていない<sup>4)</sup>。

以上により、2020（令和2）年10月1日から、異なるワクチンの接種間隔について、注射生ワクチン同士を接種する場合は27日以上あける制限は維持しつつ、経口生ワクチンを含めその他のワクチンの組み合わせについては、一律の日数制限は設けないこととなった。

なお、同時接種については、これまで通り、医師が特に必要と認めた場合には、あらかじめ混合されていない2種類以上のワクチンを同時（接種部位は別々に）に同一の接種対象者に対して行うことができる。

## < 令和2年10月1日からの「異なる種類のワクチンを接種する際の接種間隔のルール」 >



「厚生労働省：ワクチンの接種間隔の規定変更に関するお知らせ」より  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou03/rota\\_index\\_00003.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou03/rota_index_00003.html)

### 参考文献

1. 一般社団法人 日本ワクチン産業協会 予防接種に関する Q&A 集 2019
2. Petralli, J. K., et al. Action of endogenous interferon against vaccinia infection in children. Lancet.1965 Aug 28; 2 (7409) : 401-5.
3. ACIP Timing and Spacing Guidelines for Immunization. CDC.  
<https://www.cdc.gov/vaccines/hcp/acip-recs/general-recs/timing.html>
4. 第36回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会 (2019年12月23日)
5. MMWR 2009; 58 (No.RR-2)
6. Timing of vaccine administration: Canadian Immunization Guide.  
<https://www.canada.ca/en/public-health/services/publications/healthy-living/canadian-immunization-guide-part-1-key-immunization-information/page-10-timing-vaccine-administration.html>

## トピックス II

### ワクチン等の安定供給にかかる制度見直しについて

KM バイオロジクス株式会社  
 園田 憲悟、佐藤 英徳、矢治 博幸

日本国民の感染症対策、保健衛生の向上に寄与するため、ワクチンを製造、輸入、販売する4つの業界団体（日本ワクチン産業協会（日ワク協）、日本製薬工業協会（製薬協）、米国研究製薬工業協会（PhRMA）、欧州製薬団体連合会（EFPIA）、以下、「ワクチン4団体」と示す）はワクチンの開発、品質確保、予防接種の充実と普及等を目指して活動を行っている。2017年以降、政府関係当局・関係機関とワクチン4団体において、国家検定の運用改善に関する課題・検討項目（国際的な動向を踏まえた代替試験法開発や検定審査の効率化等）を整理し協議を行ってきた。

ワクチン、血液製剤など（以下「ワクチン等」という）は医薬品医療機器等法第43条に基づき、国家検定の対象品目として指定されている。また、製造販売業者によってワクチン等が適切に製造・供給されることを確保する観点から、医薬品医療機器等法施行規則において、都道府県の薬事監視員による国家検定に係る試験品の採取、封印、解封等の規定が定められている。



今般、自家試験・国家検定の試験項目の見直しとして生物学的製剤基準（厚生労働省告示）が見直され、品質の一貫性が確認された場合に、モルモットを用いた異常毒性否定試験を省略できる規定がインフルエンザ HA ワクチン等に導入された。（2020年5月施行）

また、ワクチン等は①迅速な生産調整が困難：製造にかかるリードタイムが長いいため、短時間で生産調整を行うことが困難である、②不測の事態に備えた在庫の難しさ：有効期間が短いため、製品廃棄のリスクがある、という「安定供給の確保」に対する課題に対し、関係当局及び関係機関のご尽力により、薬機法施行規則の一部改正等（令和2年6月30日）により国家検定の制度・運用の見直しが行われた。概要は以下の通りである。

国家検定の運用に係る医薬品医療機器等法施行規則の規定のうち、検定期間中の試験品の封印等に係る規定ほか関連規定について、検定期間中の製品の封印及び解封の規定及び検定合格日の表示の規定が廃止となった。これまで国家検定の実施に当たり、試験品の採取後、都道府県の薬事監視員による封印がなされ、国家検定合格まで次工程に進めなかったが、この廃止により、国家検定と並行してラベルの貼付、包装等の最終製品化を検定合格通知を受ける前にあらかじめ実施できることとなった。また、合格通知は郵送のみの対応からメールを用いる運用に変更され、情報伝達に要する時間の短縮も実現された。

さらに、企業による自家試験合格後に申請し実施される国家検定を、緊急時でなくても平時から自家試験と並行して行う並行検定が DPT-IPV、日本脳炎ワクチンインフルエンザワクチンなどで導入されることとなった。

以上を整理すると、これまではバイアル等に充填後、①自家試験の実施～合格、②国家検定試験品抜き取りと封印、③国家検定の実施～合格、④国家検定合格通知の郵送、⑤薬事監視員による開封、⑥検定合格年月日の印字含むラベルの貼付・包装等（最終製品化）の後、出荷判定を経て出荷となっていたが、平時からの並行検定導入、封印・封印解除の廃止と検定合格日表示廃止により、各プロセスが同時並行で行われることになり、相当の期間短縮が期待される。ワクチン4団体は、「国家検定制度の見直しにより、リードタイムの短縮につながることを期待される。短縮期間はワクチン及びメーカーごとに異なるが、季節性インフルエンザワクチンを除く定期接種で用いるワクチンについては、月単位での期間の短縮が可能と考えている。すなわち、平時からの並行検定の実現で約1～4ヶ月、さらに封印・封印解除の廃止等の合理化で約1～4週間程度の短縮が見込まれる。」との見解を8月の厚生科学審議会で示しており、さらに、リードタイムの短縮とセットで行う流通在庫量の積み増しによって、ワクチンの安定供給に一層貢献するとともに、今後とも関係者間で協同的かつ継続的に検討していきたいと考えている。

#### 参照情報

第24回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会（令和2年8月28日（金）開催）資料（閲覧日：2020年11月18日）[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_13247.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_13247.html)

## § Vaccine 日本ワクチン学会割り当ての投稿規定について (原著論文受付開始のお知らせ)

Vaccine 誌編集委員会 委員長 中山 哲夫

日本ワクチン学会の機関紙である Vaccine 誌には、本学会割り当ての投稿ページが 50 ページございます。これまでは原則として学術集会における推薦論文のみの掲載としておりましたが、このたび原著論文につきましても投稿を受け付けることとなりました。

ただし、Vaccine 誌に reject された論文は該当しません。

日本における特有のワクチン政策、ワクチンに関する基礎研究、疫学研究、臨床試験等で世界に発信する意義がある論文で、投稿する意義・理由を添えてのご投稿をお待ちしております。

投稿に際しましては、学会 HP **【投稿規定】** ページより「Vaccine 日本ワクチン学会割り当ての投稿規定」をご確認ください。

**【投稿規定】** [http://www.jsvac.jp/contribution\\_rule.htm](http://www.jsvac.jp/contribution_rule.htm)

投稿およびお問合せは、学会事務局 [jsvac@shunkosha.com](mailto:jsvac@shunkosha.com) までメールにてご連絡をお願いいたします。

---

## § 2021 年日本ワクチン学会第 16 回高橋賞・第 10 回高橋奨励賞 応募要綱

2021 年日本ワクチン学会第 16 回高橋賞・第 10 回高橋奨励賞の候補者を公募いたします。応募希望者は下記の要綱に従ってご応募下さい。(要綱および応募様式は学会 HP **【高橋賞】** ページに掲載しております。)

### 1. 本賞の趣旨

日本ワクチン学会高橋賞は、高橋理明先生の開発された水痘ワクチンがほぼ全世界で実用化された事を記念し一般財団法人阪大微生物病研究会により創設された。創設にあたり、同財団より高橋記念基金が当学会に寄贈された。日本ワクチン学会高橋賞は、本学会の創立趣旨に沿って学問的・実学的に卓越した貢献があった者を授賞の対象とする。また、若手会員の研究奨励の目的で日本ワクチン学会高橋奨励賞を設立・授与する。

### 2. 対象者

- ・高橋賞…原則として本学会会員とする。また、年齢制限を設けない。
- ・高橋奨励賞…2021 年 3 月 31 日時点で本学会員歴 3 年以上かつ 45 歳未満の者を対象とする。

### 3. 応募書類

下記書類の [①原本 1 部、② PDF データを保存した CD1 枚 (原本のスキャン可)] を日本ワクチン学会事務局へお送りください。

**【1】** 申請書・・・様式 1

**【2】** 研究業績の要約・・・様式 2

※高橋賞 2,000 字以内、高橋奨励賞 1,000 字以内。文中に **【3】** および **【4】** の業績番号を記入する

こと。

【3】日本ワクチン学会学術集会での発表歴（筆頭のみ）・・・様式3

※高橋奨励賞のみ提出してください。高橋賞については提出不要です。

【4】ワクチンに関する研究等の業績リスト・・・様式4

※様式1枚以内、高橋賞20件まで、高橋奨励賞5～10件まで。受賞対象研究に関わるものを中心とし、筆頭であるものを含むこと。

※【3】【4】ともに、業績リストに併せて、演題発表に関してはプログラムや抄録のコピー（表紙、目次、抄録が揃っていること）を、論文の場合は別刷（コピー可）を、教育活動は参加や開催など各項目を証明できるもの（主催者証明、院長証明など）を、その他研究等についてはガイドラインや承認申請書などを添付すること。

なお、抄録等においては申請者の名前がどこにあるのかが分かるように目印を入れること。

【5】自薦の場合には本人の研究についての抱負、他薦の場合は本会会員の推薦状1通（双方ともにA4版1枚まで）

#### 4. 応募期間

2020年11月9日（月）～2021年3月31日（水）必着

※必ず配達記録の残るもの（レターパックプラス、簡易書留等）でご応募下さい。

応募書類送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号新宿ラムダックスビル  
（株）春恒社 学会事業部内 日本ワクチン学会

#### 5. その他

- 1) 高橋賞は、学術功労賞として「高橋賞」を年間1件、若手奨励賞として「高橋奨励賞」を年間2件選出することを原則とする。ただし、授賞を行わないこともあり得る。
- 2) 日本ワクチン学会総会にて理事長より盾及び副賞（高橋奨励賞は賞状及び副賞）を授与する。
- 3) 「高橋賞」および「高橋奨励賞」受賞者は総会にて受賞講演を行うものとし、原則として当学会が指定する刊行物（Vaccine 誌の当学会割り当て）に総説を発表する。
- 4) 高橋奨励賞受賞者は翌年度のVaccine Global CongressのJSV枠プログラムに参加し発表を行うことが望ましい。
- 5) 受賞者には2021年8月末までに通知を行う。

以上



## § 2020 年度第 1 回日本ワクチン学会高橋賞選考委員会議事録

日時：2020 年 7 月 10 日（金）17：00～17：30 【Web 開催】

出席：岡田賢司（委員長）、明地正晃、奥野良信、砂川富正、竹田 誠、田中敏博、森 康子

欠席：なし

事務局：田村

### 1. 議事録の確認

2019 年第 1 回高橋賞選考委員会議事録およびメール審議の議事録が確認された。

### 2. 議決方法について

本委員会の議決方法が定められていないことから、今後の方針について審議した。

今年度導入した事前審査を次年度以降も継続し、事前審査結果は委員会開催前に回覧するほか、事前審査で意見が分かれた場合は委員会で話し合うこととした。

上記を基本方針とし、多数決や全会一致などの議決方法は定めないこととした。

### 3. 候補者の審査について

事前審査結果を基に審議を行なったが決定に至らず、第 2 回委員会にて再審議することとした。

以上

2020 年 7 月 10 日

日本ワクチン学会高橋賞選考委員会

委員長 岡田 賢司

---

## § 2020 年度第 1 回日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会議事録

日時：2020 年 7 月 10 日（金）17：30～18：00 【Web 開催】

出席：中山哲夫（委員長）、神谷 元、五味康行、高崎智彦、田中敏博、多屋馨子、中野貴司、

原めぐみ、森内浩幸、森 康子、岡田賢司（オブザーバー）

欠席：なし

事務局：田村

### 1. 前回議事録の確認

前回議事録が確認され、異議なく承認された。

### 2. 投稿規定の作成について

第 1 回委員会の開催に先立ち、メールでの意見聴取を行なった。その結果を基に審議を行ない、以下のとおり決定した。

#### 1) 投稿規定の内容について

- ・日本から発信することが重要だと考えられる内容、日本のワクチン行政・ワクチン研究に関する論文を掲載できることとし、本学会割り当てに投稿する理由を日本語で記載して事務局に投稿する。

・Vaccine 誌に通常投稿してリジェクトされた論文は、本学会枠での投稿は不可とする。

## 2) 査読方法について

- ・委員長が編集委員を中心とした2名を選出、意見が割れた場合にはもう1名の査読を行なう。査読者は編集委員のみならず、会員資格を問わない。
- ・統計学的な評価が不可欠な論文の場合は、その専門家を別枠で加えることとする。

## 3. Vaccine 誌原稿進捗状況

配布資料に基づき、2019年以降の原稿進捗状況を確認した。

以上

2020年7月10日  
日本ワクチン学会  
Vaccine 誌編集委員会  
委員長 中山 哲夫

---

# § 2020年度第2回日本ワクチン学会理事会議事録

日時：2020年7月10日（金） 18:00～9:00 Web 会議システムにて開催

出席：岡田賢司（理事長）、明地正晃、奥野良信、五味康行、砂川富正、園田憲悟、高崎智彦、竹田 誠、田中敏博、多屋馨子、中野貴司、中山哲夫、長谷川秀樹、原 めぐみ、森 康子、森内浩幸、吉川哲史、岩田 敏（監事）、宮崎千明（監事）、石井 健（オブザーバー）

欠席：なし

事務局：田村

### 報告事項1. 前回議事録の確認（岡田理事長）

2019年度第3回理事会議事録が提示され、最終版とすることが承認された。

### 報告事項2. メール理事会議事録の確認（岡田理事長）

2020年第1回～第5回メール理事会議事録が提示され、最終版とすることが承認された。

### 報告事項3. 一般経過報告（岡田理事長）

2020年6月30日現在の会員数の現状、会員数の推移を含む会員異動報告があった。

### 報告事項4. 高橋賞選考委員会報告（岡田委員長）

同日開催されたweb委員会結果として、候補者について審議を行なったが決定に至らず、後日webで第2回委員会を開催して再審議することが報告された。

### 報告事項5. Vaccine 誌編集委員会報告（中山委員長）

同日開催されたweb委員会結果として、原著論文受け入れの開始に向けて投稿規定の内容と査読

方法を下記のとおり決定したことが報告された。投稿規定は学会ホームページで公開することとした。

- ・日本から発信することが重要だと考えられる内容、日本のワクチン行政・ワクチン研究に関する論文は理由書を添えて投稿できることとする。
- ・Vaccine 誌に通常投稿してリジェクトされた論文は、本学会枠での投稿は不可とする
- ・査読は、現状のとおり2名で行なう。

#### 報告事項6. ニュースレター報告（明地理事、園田理事）

次号 Vol.37 掲載予定のトピックタイトルが報告された。

#### 報告事項7. 広報委員会報告（田中委員長）

岡田理事長、中山理事、中野理事、田中広報委員長を中心に対応を協議し、理事全体に諮った上で、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する BCG ワクチンの効果に関する見解」を発表したことが報告された。

#### 報告事項8. 予防接種推進専門協議会報告（多屋理事、長谷川理事）

2020年1月に開催された協議会議題が報告されたほか、次回（7月12日開催予定）の協議会議題である「令和2年度インフルエンザHAワクチン製造予定量増産の要望書」について、情報交換が行なわれた。

#### 報告事項9. 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会報告（砂川理事）

2020年3月27日（金）に開催が予定されていた市民公開シンポジウムにおいて砂川理事が発表予定であったが、COVID-19感染拡大の影響により開催が延期となったことが報告された。

#### 報告事項10. 学術集会準備状況報告（各大会長）

各大会長より下記のとおり報告された。

##### ●第23回日本ワクチン学会学術集会

多屋馨子会長より謝辞が述べられた。また岡田理事長より、多屋会長から学会への寄付があったことが報告された。

##### ●第24回日本ワクチン学会学術集会

会長：吉川哲史（藤田医科大学 医学部 小児科学）

会期：2020年12月19日（土）、20日（日）

会場：愛知県産業労働センター ウィンクあいち（名古屋市）

テーマ：ワクチンで創る持続可能な未来の医療

・Web開催とすることが報告された。大会の実施計画については、審議1で説明された。

##### ●第25回日本ワクチン学会学術集会

会長：石井 健（東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ワクチン科学分野）

会期：2021年12月4日（土）・5日（日）

会場：軽井沢プリンスホテル（長野県北佐久郡）

・12月2～3日も会場を仮押さえしており、大石和徳先生が代表を務めるニューモコッカルに関する研究会との共催を検討中である。

●第26回日本ワクチン学会学術集会

会長：五味康行（一般財団法人 阪大微生物病研究会 ワクチン推進部門）

会期：2022年11月26日（土）・27日（日）

会場：香川県民ホール（高松市）

報告事項11. 韓国ワクチン学会との交流について（岡田理事長）

今後も相互招聘を行なうことで合意し、第24回学術集会においても招聘講演を予定していることが報告された。

審議事項1. 2020年学術集会・総会について（吉川会長、岡田理事長）

資料に基づき開催形態が説明された。Web開催（リアルタイム配信およびオンデマンド配信）とし、聴講はwebのみとなる。理事より下記の意見が挙げられ、学術集会運営事務局にて検討していただくこととした。

・一般演題についても可能な限り（後日レスポンス等）質問を受け付けるかたちとして欲しい。

・若手奨励賞は質疑応答も採点に含めた方がよい。その場合は、審査員のみ質問可とするなど質問者に制限を設ける。

・若手奨励賞の表彰式および総会の実施方法については引き続き検討していく。

審議事項2. FUSEGU2020プロジェクトについて（岡田理事長、中野理事）

中野理事よりアドホック委員会について説明された。未定となっているアドホック委員の選出について検討したが決定に至らず、後日改めて選任を行なうこととした。

審議事項3. COVID-19に関する学会の対応について（岡田理事長）

1) COVID-19に関する論文検索と公開を行なうワーキンググループの立ち上げが提案された。

論文検索については会員のニーズに応えられる情報源の選定が難しいなどの意見が挙げられたため、見送ることとした。新たな案として、学会ホームページにWHOなどから選定した情報のリンクを掲載することが決定した。リンク先のピックアップを進めていく。

2) 情報発信方法について、学会ホームページおよびメール配信では費用面の制限があるため、SNSなど双方向性のあるツールを活用して若い会員や一般へ情報発信を行なっていきたいという意見が挙げられた。田中広報委員長を中心として検討していく。

審議事項4. その他

- 1) 岡田理事長より『太田原豊一賞』学会推薦について、候補となる会員への声掛けを依頼した。
- 2) 岡田理事長より、次回理事会を9月に予定していることが通知された。
- 3) 砂川理事より、COVID-19のワクチン導入時に備え、アカデミアからの発信を行なうためのワーキンググループ立ち上げが提案され、承認された。担当理事の選任を進めていく。
- 4) 砂川理事より、Vaccine Hesitancyに関してワーキンググループなどで意見交換する必要があるとの提案があった。ワーキンググループ立ち上げについては慎重に検討していくこととした。
- 5) 長谷川理事より、自然災害や感染症拡大などで学術集会開催に影響がでた場合の学会からの補償について、今後審議を行なう必要があるとの提案があった。今後検討していくこととした。
- 6) 田中理事より、2020年10月開始のロタウイルスワクチン定期接種について、学会から積極的にアナウンスしていきたいとの提案があった。日本小児科学会とタイアップする方向で進めていくこととした。

以上

2020年7月10日  
日本ワクチン学会  
理事長 岡田賢司  
庶務担当理事 中野貴司

日本ワクチン学会 賛助会員

<二口賛助会員>

KMバイオロジクス 株式会社

サノフィ 株式会社

第一三共 株式会社

一般財団法人 阪大微生物病研究会

<一口賛助会員>

M S D 株式会社

一般財団法人 化学及血清療法研究所

北里薬品産業 株式会社

グラクソ・スミスクライン 株式会社

三機工業 株式会社

医療法人 相生会

武田薬品工業 株式会社

田辺三菱製薬 株式会社

デンカ 株式会社

日東電工 株式会社

ニプロ 株式会社

日本ビーシージー製造 株式会社

五十音順 2020 年 11 月 1 日現在



---

日本ワクチン学会ニュースレター 第38号  
2020（令和二）年11月20日発行

発行人 日本ワクチン学会  
理事長 岡田 賢司

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号  
新宿ラムダックスビル（株）春恒社 学会事業部内  
日本ワクチン学会事務局

TEL：03-5291-6231 / FAX：03-5291-2176 / E-mail：jsvac@shunkosha.com

---

